

荒尾産業団地



6月から工業用水道の供給スタート

半導体部品製造の熊本工場が完成

日本精密電子



熊本県の最北端に位置する荒尾産業団地。福岡・熊本の両経済圏をカバーできるとして、自動車関連、半導体関連産業の進出が相次いでいる。荒尾市は、裾野の広い自動車関連産業の集積を目指す「荒尾カートピア構想」を始動。同団地にも、この構想誘致による企業の進出が続くなど、地元自治体の企業誘致活動も活発だ。また、6月からは、新たに工業用水道の供給が開始されるなど、幅広い業種での利用が可能になったことから、企業集積が加速するだろう。この荒尾産業団地で、この春、操業開始した九州トリックスと日本精密電子株式に進出の決め手などについて話を聞いた。



一住連野日本精密電子社長

精密部品加工業の日本精密電子株式会社（横浜市、一住連野社長）が荒尾産業団地に建設していた半導体関連部品製造の熊本工場が6月27日に完成した。「現在、関東に工場を集約しているが、遠隔地に生産拠点を置くことで、予期せぬ災害が起きた際にも、顧客に対してサービスを継続できる体制が整った」と新工場建設の狙いを語る一住連社長。

半導体関連部品であるリソング形状の複合加工製品で独自性と高い技術力を持つ同社では「秘密保持のため、工場の体制が整い次第、事業を拡大する計画を立てていた」という。しかし、東京エレクトロニクスをはじめ、顧客となる半導体製造装置メーカーが集積する九州エリアで予想以上に需要が拡大していることから、「リソング」に加えて、ス



6月27日完成した半導体関連部品製造の熊本工場

パエンプラ材を使用した部品の製造を同時にスタート。初年度の売上高は当初の計画を上回る3億円以上となる見通しだ。同団地への進出経緯について一住連社長は「熊本県は、半導体関連産業への支援が厚く、顧客となる企業が集積している。また、九州の中間地点ということから、

営業、デリバリーの両面で優位な地」と笑顔で語る。用地取得に関しては、中小企業基盤整備機構から荒尾市が取得した用地を同社にリースする制度を採用。「3年後に、用地を買い取る計画で、初期費用を最小限に抑えるシステムとして非常に有効だった」という。また、同社は、「モノづくりは人づくり」を掲げ、個々の社員のスキルを高める教育プログラムの整備を進め、人材育成に力を入れている。地元人材の印象について「素直で純粋、元気な人が多い。熊本工場は、若い社員が多く、今後の活躍に期待している。金社員一丸となって地元を根ざした工場を作ってほしい」と抱負を語った。

◆◆ トップページへ戻る